



ほけんだより9月

愛和学園

まだまだ残暑が厳しい毎日ですが、9月の終わり頃になると、1日の気温差が大きくなってきます。夏の疲れも溜まっているこの時期は、旬の物を食べたり、ゆっくりお風呂に入ったりして、リラックスして過ごしましょう。

溶連菌感染症ってどんな病気？

溶連菌感染症とは、溶結性連鎖球菌に感染し、発症する感染症です。少し前までは11月～4月頃にかけて流行しやすく、子どもが罹りやすい病気とされてきました。しかし、近頃は季節を問わず、大人への感染も報告されています。

症状は？

38～39℃の発熱と、喉の痛みが主な症状で、鼻水や咳はあまり出ません。その後、全身に赤い発疹(かゆみが出ることもある)が出たり、舌がイチゴの様に赤くザラザラしたりします。



感染経路は？

くしゃみや会話によって、細菌を含んだしぶきが飛び散り、それを吸い込むことで感染(飛沫感染)します。ほとんどが飛沫感染によって感染しますが、感染した人の皮膚が他の人の傷口に触れて感染(接触感染)したり、汚染された食品を介して経口感染することもあります。

治療は？いつから登園できる？

処方された抗菌薬(抗生剤)を内服すると1～2日で解熱し、喉の痛みも和らげられます。抗菌薬内服後、24時間でほとんど感染力はなくなるとされていますが、リウマチ熱や急性糸球体腎炎などの重大な合併症を防ぐため、処方された期間、抗菌薬を飲み切ることが大切です。熱がある時は、経口補水液や麦茶、ジュースなど水分補給をしっかりと行いましょう。また、喉の痛みがある時は、熱い物や刺激物、柑橘系の果物は避け、ゼリー、アイス、うどん、おかゆなどを与える様にしましょう。登園再開の目安は『適切な抗菌薬による治療開始後24時間経過し、全身状態が良くなってから』となっています。機嫌や食欲など総合的に見て判断しましょう。



交通ルールを守って事故を防ぎましょう

9月9日は「救急の日」です。子どもの交通事故は、保護者が一緒にいるときにも起こりますが、小学1年生(7歳)になると、子どもだけでの登下校が始まることもあり、交通事故が起きやすいと言われています。実際に1～14歳の子どもの死亡事故で、最も多いのは交通事故です。小さい頃から繰り返し交通マナーを伝えることが、子どもの命を守ることに繋がります。

【子どもに伝えたい歩行者の交通ルール】

- ① 歩く場所と標識の見方
 - ・歩道または路側帯(白線の内側)を歩く
 - ・道路の右側を歩く
 - ・よく目にする標識や表示の意味
- ② 道路の横断の仕方
 - ・信号の赤・青・黄の意味
 - ・信号機のない交差点の渡り方
- ③ やってはいけないこと
 - ・道路への飛び出し
 - ・道路での遊び
 - ・車のすぐ前や後ろの横断



子どもを車に乗せるときは…

6歳未満の子どもには、チャイルドシートの使用が義務付けられています。体格・体重にあったチャイルドシートを後部座席で使用する様にしましょう。子どもの手や首がドア、窓に挟まる事故も起きています。チャイルドロックを掛けたり、窓の開閉時には必ず声を掛けたりして事故を防ぐようにしましょう。また、短時間でも子どもを車内に残したまま車を離れてはいけません。親が降りる前に、子どもを先に降ろすことも危険なので、絶対に止めましょう。